

5月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
いちご類	2,241	前年並	2,311	883	105	819	-	-	東京の桜開花は予定より2日早かったが、その後の天候は雨や曇りが続き気温も低く満開に時間がかかった。そのような天候でいちご類の出荷量は伸び悩んだ。4月に入ってからの曇天続きで品質にも影響が出始めたため、品質強化を図り、GWに出荷数量を上げていく。中旬からは各産地ともに出荷は終了に向かうが、6月に向けても数量を集めながらの販売が続く。
おうとう	187	やや多い	113	2,836	95	3,924	69	37	4月から山形・山梨・長野とハウスおうとうの産地が出揃い、4月下旬からGWにかけて各産地、出荷量を上げていき、母の日までは出荷数量を安定させながらの販売になる。母の日がらみは化粧箱中心にはなるが、その後の出荷はパック及び簡素化の形態が中心になる。主力品種は「佐藤錦」。
すいか類	6,883	少ない	6,374	287	94	267	1	0.0	すいか類全体では、主力となる熊本産大玉すいかの数量が落ち込むことで、GW中に出荷量も前年を下回る見込み。連休後も出荷量の急増は見込めないが中旬以降は大玉・小玉すいかともに各産地出荷増加となる。気温の上昇に伴って4月下旬からは量販店などでのカット販売も始まっており、徐々に動きは活発化している。
メロン類	3,594	前年並	3,451	512	97	509	1	0.0	前年は年明けの低温で若干熊本産で出遅れが見られたが、その後の好天で4月中旬以降順調な入荷であった。本年は生育期間中の気温が高く前年気味にスタートしたが、3月後半の冷え込みなどで若干小ぶりのものも散見され、4月の数量は伸び悩んだ。5月には各地出荷が本格化して出回りは増加。初夏にかけての主力商材として存在感を強めていこう。